

東京都立大学教授・心理学
託摩 武俊

お七夜、お宮参り、七五三、成人式、還暦など人生のある時点でお祝い、無事に成長したことを本人のために周りの人が祝福する習慣で、通過儀礼とも言います。例えばお宮参りというのは誕生後三か月、あるいは百日を迎えた日に、親が抱いて近くの神社にお参りします。このころになると首がちゃんと座って抱きやすくなります。順調に育ちつつあることをお祝いする意味があると思います。

生活の中の儀式

近年このようなさまざまな行事が、一方においては華美になり、他方においては省略化され、廃止されつつあります。結婚式、社長の就任式、七五三などは前者であり、節分の豆まき、紅葉狩りなどは後者になります。自然との接触の少ない都会型の生活が主になったのですからやむを得ません。針供養



とか灯籠流しなどは知らない人も多くなりました。子どもを中心に考えたとき、私は人生のそれぞれの節目にあたる儀式、一年の季節の移り変わりや関係の深い行事は、家庭の中で、できる範囲内で行ってほしいと思います。親と子が同じ場所について体験を共にし、その日のいわれについて親が子どもに話すことがたいせつなことです。

親と一緒に七夕の夜を楽しんだり、秋のお月様を眺めながらおだんごを食べたりした記憶は、子どもの心の中に鮮明に残るものです。そして、その日の親の言葉や動作も、ふだんの日は違ったものとして、忘れ難いものになるのです。

家庭看護法

老いを看護る

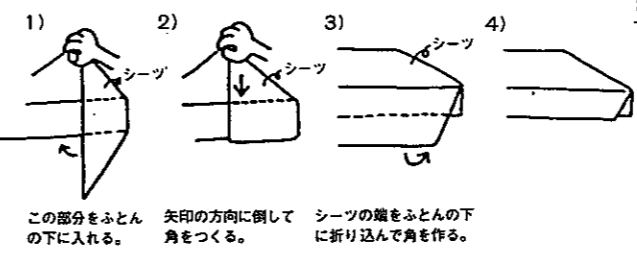
No. 5 病人の住環境

日本赤十字社新潟県支部
佐々木 成子

病室は、静かで明るく、風通しもよく清潔で、トイレも近く、できれば庭も眺められる位置にあることが望ましいです。寝たきりのお年寄りには、さらに「独りぼっちにしない部屋」という条件を付け加えたいものです。用のあるときしか、だれも行かない奥まった部屋などは、お年寄りにとってどんなにか寂しいことでしょうか。人とのコミュニケーションがとれがちになると、精神機能も衰えてボケやすくなるといわれています。

五度以内にとどめます。寝床は、病人にとって生活の場です。気持ちよく休めて、早く回復するよう配慮したいものです。はって移動しやすいもの、一般的にはベッドをお勧めします。座る、立つなどの動作がしやすいうえ、お世話も楽にできます。また、お年寄りの状態に合わせて、ベッドの高さを調節すると挙動範囲が広まります。敷布団は柔らかすぎず体がめり込まないものがよく、シーツは四方が折り込める大きなもので、図のように整えると寝くずれしなくなります。しわは床ずれの原因になります。

かどのつくり方



廃校の跡地に記念碑が立つ

語る人

織田 護さん
(北田中・六十七歳)



根岸地域は昔、小学校が二か校あり、旧根岸村の南部に村立高井小学校、北部に松橋小学校がありました。私たちの先代は、百年余りの長い間これらの学校で学んできたわけです。しかし、世の移り変わりとの計画で、去る五十一年に根岸小学校として統合され、高井、松橋両小学校は廃校となりました。

私の思い
あの時この場所

市内には、統合された学校が何か所もあります。廃校になった跡地には、先代の皆さんが「ここで学んで来た」ことを後世に伝えるため、記念碑が建立されています。高井小学校の跡地に記念碑が建立されたのは、廃校になってから十年後の六十一年で、建設委員の努力でようやく実現しました。旧校区の全世帯からの寄付金と石材店森忠さんの厚意により、予想以上にりっぱな記念碑となったわけです。

ときおり、高い記念碑を見上げ、刻まれた校歌を口ずさんで昔を懐かしく思い出しています。

あなたの思い出を お寄せください

「あの時この場所」は、あなたの思い出を語ってもらうコーナーです。市内をはじめ、市外、県外、海外の心に残るあの時の思い出を写真といっしょにお寄せください。あて先は〒950-12 白根市大字白根1-2335 白根市役所企画調整課広報聴係(☎033333)です。

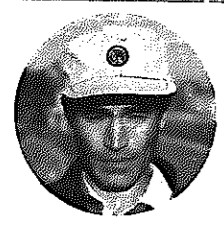
しろねの農産物

⑥ 食用菊



食用菊を食べている地域は、全国では本県から北の地域で、西へ向かうほど食べない傾向にあるそうです。県内でも下越の消費量が多く、西に位置する上越では少ないとのこと。「ひたし」「辛子あえ」など、シャキシャキとした歯ざわりの、あのおいしさを知らないのは、ちょっとかわいそうな気がします。本市の食用菊は昔から作られていたものの、庭先栽培で自家消費が中心でした。商品化されたのは、昭和五十年ころからで、今では県内生産量の90%を占め、他を圧倒しています。今後は、販売面について努力を入れ、特に首都圏への売り込みを図りたいとのこと。東京で食用菊を買う人は、本県出身者が多く、一般にはまだまだ知られていないのが実状のようです。市農政課では、食用菊の品種名「かきのもと」の由来を調べています。ご存じの人は、ぜひご連絡ください。(☎0235)

生産者の声



今井弘志さん
(十五間・46歳)

共同出荷を八年ほど前から始めたことから、お互いに研究し合い栽培技術や品質が向上しました。今年価格が安かったのは、生産過剰きみのためでしょうか。首都圏の人に「かきのもと」をぜひ食べさせたいですね。